北海道教育委員会
宿泊研修が大受け
すでに百校が実施
学校側〝人間性とり戻した〟

【札幌】高校修学旅行の新しいありかたについて北海道教委が北海道修学旅行改善協議会の答申を受けて決定した「宿泊旅行」と「見学旅行」の二本立ての新基準は施行前のことしから早くも「宿泊研修」を百校以上が実施、生徒から大好評を得ている。この方向は全国でも珍しいケースとして注目されよう。

北海道教委（岡村正吉教育長）ではことしの一月、高校修学旅行改善協議会からの答申を受け、高校修学旅行を「宿泊研修」と「見学旅行」の二本立てとし、来年度から新しい基準として実施することになっていた。

ところが、すでにことしから「宿泊研修」の実施をはじめる高校が続出、その上いずれも生徒たちの人気を集め大好評だったという。

同教委の調査によるとこの「宿泊研修」を全日制百八十六校のうち五十四校、定時制二百校のうち五十九校が実施していたという。

利用した施設は国、道、市町村立の青年の家、キャンプ場、ユース・ホステルなどで、全日制が二泊三日、定時制が一泊二日の日程となっており、費用は平均で全日制二千五十一円、定時制千六百五十五円だった。

生徒たちは〝先生といっしょになってキャンプで踊り歌い、とても楽しかった〟と語り、いま流行の「断絶」解消に大きな役割りを果たした。学校側も〝共同生活で失なわれた人間性の回復に効果があった〟と高く評価しているほどだ。

ただ問題点は宿泊研修のできる施設が少ないことで、せっかく計画したが適当な場所がなく、やむを得ず中止した高校もあったという。そのため学校から「施設や設備をふやしてほしい」と道教委に要望している。

人間関係の発見
道教委学校教育課長　田中保氏談

修学旅行の改善にともない、新しく設けられた宿泊研修は先生や級友との心の触れあいを深めたり規律ある集団生活を自主自律的に営むことによって、人間としての調和のとれた発達と、正しく明るい社会的連帯感を育成しようとするのがねらいだ。これが生徒の正常な発達をねがう学校側からも、また日常の学習を離れてのびのびと大自然の中で人間関係をたしかめあう喜びを発見した生徒からも好評をもって迎えられた原因だと思う。これからは研修の方法や施設・設備の拡充につとめて、さらに成果のあがるものにしたい。

関修委運営委員会ひらく

関東地区中学校修学旅行委員会（渋谷富二会長）では十一月十七日午後一時から全修協本部会議室で第四十七回運営委員会を開く。

議題は①昭和四十七年度新幹線修学旅行専用電車の運行について②その他。会長をはじめ各県の役員、運営委員のほか国鉄からも係員が出席する。

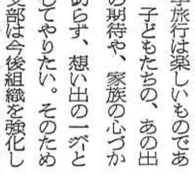
大和路を語る会
北海道四市で開く

ことしの「修学旅行のための大和路を語る会」は十一月十日函館市、十一日室蘭市、十二日札幌市、十三日旭川市で各市町村教委、関係者、各高校長および修旅担当教諭を招いて開催される。主催は奈良県、奈良市、橿原市、桜井市、吉野町、斑鳩町、明日香村、天王寺鉄道管理局、後援は道教委と各地方教委、全修協など。奈良地方にある仏像名作スライド六十点のほか評論家青山茂氏の講演もある。

横顔
純粋な人柄に魅力
=全修協福島県支部長=
小沢一郎氏

★…剣道五段という豪快な人柄だが、純粋さも人一倍。休日にスケッチ・ブックを抱えて郊外を歩き回わる画家でもある。もっぱら風景画と取り組んでいるが、これも氏の座右銘〝敬天愛人〟から出発しているようである。「地球は自己中心で回転しているのだという考えかたがはびこっている。残念なことである。人間はこの宇宙の中ではごく小さな存在だ。天の道に学び敬い、隣人とともに同時代を明るく生きたいものだ」こうしみじみ語る。

★…「誰でも経験しているように修学旅行は楽しいものでありたい。子どもたちの、あの出発前夜の期待や、家族の心づかいを裏切らず、想い出の一㌻として残してやりたい。そのため福島県支部は今後組織を強化し大きな運動の中核になりたい」と抱負をのべている。全修協のホープの一人。



★…昭和二十五年、東京教育大学教育学部卒、県内小中学校を歴任ののち、三十九年に県教組中央執行委員長に就任。四十年全修協県支部長となり現在にいたる。四十七歳のはたらきざかり。

入賞作品きまる
研修旅行写真コンクール
推薦に館、杉山両氏
北海道知事賞　仁川、清水氏の手に

第十四回本年度教職員研修旅行の写真コンクールはカラー作品三百四十五点、白黒作品二百十一点計五百五十六点で、総計では昨年より若干減少をみたが、これは万国博コース設定のため一般コースが少なかったためとみられる。しかし作品の出来栄えは年を追ってすばらしく、全修協本部事務局で行なわれた審査会でも審査が難航した。

カラーの部の推せんは三重県・館彰氏の「阿蘇の噴煙」、同特選は埼玉県・多田力氏の「ママ、全修協の皆さんだね」入選には山形・菅野文男氏の「尖石の考古館」と北海道・斉藤チセさんの「能登の朝」また北海道知事賞には大阪府・仁川茂氏の「白老にて」が入賞した。

また、白黒作品の推せんは静岡・杉山茂氏の「シャモ来る」、特選には兵庫県・河野好博氏の「連絡船にて」が、入選には滋賀・吉澄随聖氏の「村の段々畑と石垣をめぐらす家」と富山・清水巌氏の「霊泉」。北海道知事賞には同じく富山・清水巌氏の「若者と客」がそれぞれ栄冠を獲得した。総評と作品評および入賞者は次の通り（敬称略）

【推せん】白黒「シャモ来る」
杉山茂氏（静岡）

めざましい進境ぶり
総評

回を重ねるごとに立派な作品がたくさん集るようになり、審査にあたっていても楽しい。とくにカラーは色彩がよくなっているのが目立つ。EEカメラを使用するばあい、遠景は露出によく注意することが必要である。

カラーでは原色をとらえるよりも淡い色調のものをねらえば美しい作品ができる。カラー作品の激増は時勢だが、白黒でもカラーにまさる作品ができることを特記したい。心構えとしては要するに〝研修旅行〟にポイントをしぼることで、単なる風景ならば市販の絵葉書のほうがよいということである。

題名については前年も注意したように概念的なものではなく、ねらった事物自体を表現するようにしたい。コンクールのばあい、題名も当落を左右する重要なポイントであることを忘れてはならない。今回の応募作品のなかには、面白い題名のものがあった。

……カラーの部……

▽推せん（一名）賞状と賞金七千円

「阿蘇の噴煙」三重県三重郡菰野町田口新田、館彰（朝上小）

【評】ピントが合い、色調もととのっている。この種のものは平凡さが伴ない勝ちであるが、それから抜き出ているのは作者の腕であろう。

▽特選（一名）賞状と賞金五千円

「ママ、全修協の皆さんだね」埼玉県所沢市元町八―二三、多田力（入間中）

【評】ねらいがよく、なかなかユーモラスに撮れている。サルの赤い顔や乳房、そして毛並みなどカラー写真の特色を十分に生かしている。

▽入選（二名）賞状と賞金一千円ずつ

「尖石の考古館」山形県寒河江市中央一―一―四五、菅野文男（幸生小）

「能登の朝」札幌市真駒内緑町三丁目緑マンションB一〇六、斉藤チセ（澄川小）

▽北海道知事賞（一名）賞状と記念品

「白老にて」大阪府堺市南清水町二―一―一、仁川茂（大国小）

【評】白老のアイヌの作品は多く、平凡におちいりやすいが、この作品は色彩が美しく、研修旅行の一コマを適切に表現したものとして推した。欲をいうならマトを絞ったほうが効果もあがっただろうと惜しまれる。

▽佳作（十五名）賞状と記念品

「白樺映える神秘の摩周湖」中村ハツイ（新潟）「マリモ」長久勝一（兵庫）「静かな地獄谷」大山勢子（京都）「昭和新山」岩本馨（佐賀）「ごくろうさんツーリスト」森田達夫（茨城）「風景画」小幡尚（山口）「噴火孔」作田孝子（和歌山）「洞爺湖の朝」立岩栄子（山口）「伝説をひめるマリモ」新井宏恭（福井）「青島の風景」喜多十四子（和歌山）「窓辺の憩」岩坂新蔵（千葉）「何ばい食べられる」上村輝子（京都）「黒部湖の流木」小野智子（大阪）「懐古」柳下芳（大阪）「足摺岬」吉澄随聖（滋賀）

……白黒の部……

▽推せん（一名）賞状と賞金七千円

「シャモ来る」静岡市浅間町二―十七、杉山茂（静岡工業高校）

【評】明暗のコントラストがよく、とくに部屋のなかの裸電球はすばらしい効果をあげている。人物の表情、動作の一瞬をとらえているあたり作者の力量を思わせる。

▽特選（一名）賞状と賞金五千円

「連絡船にて」兵庫県津名郡五色町広石下九四六、河野好博（鮎原小）

【評】構図がすばらしい。中央の人物も印象的。いかにも船上の風景らしいが、上部をもっと出せばよかった。

▽入選（二名）賞状と賞金一千円ずつ

「村の段々畑と石垣をめぐらす家」滋賀県守山市守山町、吉澄随聖（瀬田工業高校）

「霊泉」富山県上新川郡大沢野町上大久保五二七―二、清水巌（厚生会）

▽北海道知事賞（一名）賞状と記念品

「若者と客」富山県上新川郡大沢野町上大久保五二七―二、清水巌（厚生会）

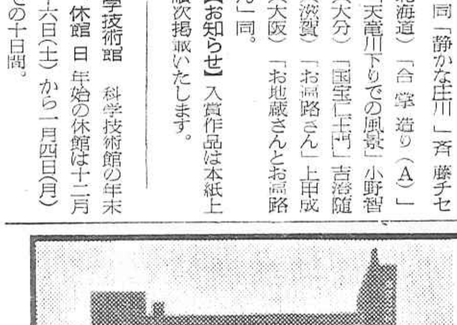
【評】ごく自然にとれている。構図もよく、人物がそれぞれ生きていて、いかにも北海道研修旅行らしい作品である。

▽佳作（十五名）賞状と記念品

「イヨマンテを踊る子供」清水巌（富山）「女の瞳」同「羊ヶ丘にて」福本博郭（三重）「札幌にて」同「くまさん」杉山茂（静岡）「深山渓谷」岩本馨（佐賀）「父と子」山下友子（鹿児島）「狼煙」藤井貞子（東京）「五重塔」同「静かな庄川」斉藤チセ（北海道）「合掌造り（A）」同「天竜川下りでの風景」小野智子（大分）「国宝仁王門」吉澄随聖（滋賀）「お遍路さん」上甲成俊（大阪）「お地蔵さんとお遍路さん」同。

【お知らせ】入賞作品は本紙上に順次掲載いたします。

科学技術館　科学技術館の年末の休館日　年始の休館は十二月二十六日(土)から一月四日(月)までの十日間。



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

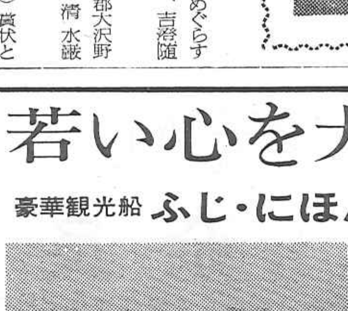
東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585−1046(代表)

東京 コマ旅行会館

若い心を大きく広げる

豪華観光船 ふじ・にほん丸（旅客定員 1,800名 3,000トン）



見ているだけで、心が大きく広がる海――
修学旅行は海になさいませんか。
日本最大の豪華客船　ふじ・にほん丸が、
生涯忘れえぬ修学旅行へご案内いたします。
純白の船体に若い心をのせて……。

- 科学技術の粋をあつめた最新鋭船。
- 一流ホテルのような豪華な設備、完全エアコン。
- 皆さまのスケジュールにあわせて就航。
- 学習講議用TVシステムも完備。
- 一般乗客との混乗はありません。

●お問い合わせは●
Ⓐ 大島運輸株式会社 東京支店　東京都中央区日本橋通1の6
浅野ビル ☎(03)273−8911

出雲の伝承文化

雄大な国引き神話

＝記紀と風土記の相違＝

古橋　博

公害、スモッグの多い東京に住む者として八月末の出雲の空、とりわけ雲が美しかった。やはり、八雲立つ出雲に来たという感がした。

ご承知のように「八雲立つ」は出雲にかかる枕詞で、八雲は八重雲に通じて、多くの雲という意味…古代農業時代において、旱天を恐れ、雨雲を求めるの情から、雲の神を豊雲野神（とよくもぬのかみ＝古事記）と仰いでいるのを考えると、八雲立つの出雲は旱（ひでり）のないように、豊かな雲の立ちでることを連想させる意味でそこには豊かな雲によって降雨が適度で農耕がよく行なわれるよう素朴ないのちを豊作にかけて生きた出雲びとの切実な苦しみと祈りと感謝とがこめられているのを感ずる。

出雲風土記に『出雲と号（なづ）くる所以（ゆえ）は八東水臣津野命（やつかみずおおみづぬのみこと）、詔（の）りたまひしく「八雲立つ」と詔りたまひき。故（かれ）八雲立つ出雲と云ふ』とあり、これは出雲の国名の由来を述べたものであるが、古事記によれば、八東水臣津野命（古事記ではおみずぬのかみ）の祖神である須佐之男命が須賀の宮を営まれた時『八雲立つ出雲八重垣妻ごみに八重垣つくるその八重垣を』とよまれているので、八雲立つ出雲という言葉はすでに須佐之男命も用いられていることになるのであって、大和朝廷の伝承と出雲びとによる伝承との違いをそこに見るのである。

つなぎ合せた大地

ところで、八東水臣津野命と須佐之男命の関係を古事記上巻須佐之男命の神裔を述べたところでみると、おみずぬのかみは須佐之男命の五世の孫、大国主命（大穴持命）の祖父神に当るが、ここで古事記はただ須佐之男命と大国主命の関係を伝える系図を記したのみで、出雲風土記の伝える雄大な国引きの伝承は述べていない。国引きの神話の大要は、次の通りである。

むかし、八東水臣津野命が『この出雲ははじめに小さく作られているので、自分がつぎ足して縫い合わせよう』と仰せられて、新羅の国の余りを大鋤（おおすき）をお持ちになって、その土地をぐさと断ち切り、三つよりになった強い綱を掛けて、引きずり寄せながら『国来（くにこ）、国来』といってつなぎ合わせたのが、いまの杵築（きづき＝大社町）の岬で、その土地をつなぎ固めるために立てた杭は、石見国と出雲国との境にある佐比売（さひめ）山（三瓶山）がそれである。また、その引いた綱は薗（その）の長浜がそれである。

つぎに、北方の佐伎（さき）の国の余りを引いて継ぎ合わせた土地が狭田（さだ＝佐太）の国（佐陀川の切れ目から小津（おず）の切れ目まで）がそれである。

古事記にみる伝承

さらに北方良波（よなみ）の国から闇見（くらみ）の国、それから北陸の都都（つつ）の岬の余りを引いてきたのが三穂の岬で、その引いた綱が夜見島（今の夜見ケ浜）、つなぎとめた杭が、伯耆国の火神岳（ひのかみのたけ＝今の大山）である。かくて「今は国引きを終った」と仰せられて、意字（おう）の森に杭を突き立て「おうえ！」と感激の叫びを洩らされた。

このような出雲風土記の伝える雄大な国引きの伝承は、古事記では述べていない。これは大和朝廷を中心とする国家の成立、天皇のもつ統治権の尊厳性を誇示する意図をもって編さんされた古事記としては、余りに出雲に重みを加えすぎないよう考えて、割愛したものと思われる。出雲路を旅する人は、ぜひとも八東水臣津野命の国引の神話を考えて、その地を訪れるようにすれば、古代出雲びとの雄大な心根がしのばれるというものである。

出雲大社拝殿をゆく修学旅行生（島根県提供）

出雲風土記にある八東水臣津野命は、いわゆる国引きの神であるが、八東水は枕詞的修飾語であり単に臣津野命といってもよい。（出雲郡伊努郷の条では意美豆努命＝おみ ずぬの みこと ＝とみる）が、臣津野（おみずね）は大水主（おみずぬ）の意と考えられ大水の主宰神であると思われるがその親神の深淵之水夜礼花神（ふかぶちのみずやればなのかみ）は深い淵の水が流れ砕けて花の如く散る奔流、即ち早瀬の神である。

沖積地を見守る神

また、臣津野命の御子神を風土記では、出雲郡伊努郷の条で、意保須美比古佐倭気能命（よほすみひこさやけのみこと）といっているが、意保須は大洲（おおす）で広い沖積地、美は見守る、比古は彦で男神の意、佐倭は分学の意であるから、即ち、広い沖積地を見守る男性神という意味である。

このように、早瀬の神の御子が大水の神で、その子が大水による沖積地の神としたのは、まことに面白い

われわれが水魔、水禍といって恐れている大水に対して、古代人が恐れ憎しみを表現することなく大水の神であるこの神を国引きの神と仰ぎ、沖積地の建設という営みをこの大水の業（わざ）に帰して、出雲国、意宇郡、島根郡の名称をもつ神に関して語り伝え、その御子を沖積平野の守護神と崇めて、その国土建設の功を讃えているのは、いかにも広大な考え方といえよう。

古事記のように、大和朝廷を中心とする天皇の国家統一に当り、政治的権威の正当性を誇示せんとした神話編さんとは異なり、出雲風土記の神話には、地誌のなかで述べていることから、国土の開発や生活の起源を神々の営みにもとめるというかたちがとられているのは、親しみが もてる といえよう。

記紀と異なる性格

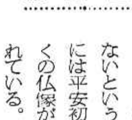
学校教育（社会科）に神話復活の是非が云々されるのは、そこに政治的意図がみられるところに存在することを考え、出雲神話には記紀と性格を異にする風土記神話の価値を重視する必要があると思う。

記紀にでてくる大国主命（大穴持命）にかかわる神話（因幡の白ウサギから国譲りまで）は多くの人々の知るところであるが、出雲風土記のそれは、案外知られていない。出雲の伝承文化を考える場合、記紀の出雲神話を出雲風土記の神話に優先すべきだとする説は反省されなければならない。出雲びとによって伝承されてきた神話が出雲国造りを中心として、出雲人の手によってまとめられてきた点を重視しなければならないと思う。また考古学の進歩が著しい今は、この神話伝承の裏付けとして古墳文化との関連による考究がされればまことに面白いものがあると思う。

出雲路の修学旅行には、この点に想いを致し、少くとも出雲風土記の意義と大要を事前教育の教材にしたいものである。（東京私立中高協会修学旅行研究調査会代表委員・大妻高校教諭）

集印帳

室生寺



蔵王堂

蔵王堂（奈良県吉野町）

金峰山寺にあり、康正元年（一四五五）に再建された東大寺大仏殿につぐ日本第二の木造建築物で海抜三百六十四米の地にそびえている。本尊は天武天皇元年（六三七）に役の行者が金峰山で感得したという金剛蔵王権現である。蔵王権現は修験道だけで信仰されるもので仏でも神でもない。日本古来の山岳信仰と中国の天師道道宗教が結合してできた修験宗の本尊。東崖下の広場は吉野朝宮あと。金峰寺を中心に付近一帯はサクラの名所、そのかげに南朝六十年に悲史がただよっている。

室生寺（奈良県室生村）

女人高野といわれ、昔から伊勢街道をいく女人たちの信仰を集めていた。現在では新義真言宗豊山派であるが、最初は天台の教学を兼ねた法相の寺として誕生したが、元禄七年（一六九四）徳川綱吉から信任のあった護持院隆光が興福寺一乗院宮真敬法親王からこの寺を拝領したことから始まったといわれる。弘法大師の開基と伝えられるが、樋口清之博士によればその証拠は何もないという。金堂には平安初期の多くの仏像が安置されている。

万葉史蹟めぐり

都野の浦

荒磯に別離を歌う

堀田　勇

柿本人麿の作品群の中でも、次の「石見国（島根県）より妻に別れて上り来し時の歌」は際立って哀艶な秀歌である。

石見の海 角（つの）の浦廻（うらみ）を 浦なしと 人こそ見らめ 潟なしと 人こそ見らめ よしえやし 浦はなくとも よしえやし 潟はなくとも いさな取り 海辺をさして 渡津の 荒磯の上に か青なる 玉藻奥つ藻 朝羽振る 風こそ寄らめ 夕羽振る 浪こそ 来寄れ 浪の 共（むた）が寄りかく寄り 玉藻なす 寄り宿（ね）し妹を 露霜の 置きてし来れば この道の 八十隈毎に よろづたび 顧みすれど いや遠に 里は放（さか）りぬ いや高に 山を越え来ぬ 夏草の 思ひ萎（しな）えて しのぶらむ 妹が門 見む 靡けこの山

反歌二首

石見 のや高角 山の木の間よりわが振る袖を妹見つらむか

小竹（ささ）の葉はみ山もさやにさやげども吾は妹思ふ別れ来ぬれば

○……

例によって、豊かで適正な比喩を背景に、枕詞・序詞・対句などを精妙に積み重ねて造型された抒情詩である。

荒磯に寄せた海藻のくわしい描写は土地の風物と密着した心情の表明であり、それはまたそのまま妻の形容にもなって、景と人との渾和を語っているようである。これは人麿の、妻と都野の浦への愛のしるしということもできるのではなかろうか。

そしてその「浦なし・波なし」と人のいう荒涼茫漠たる荒磯は妻との別れに悲嘆している人麿の心情でもあり、残された妻のこれからの生涯の暗示でもあるといえそうである。

人麿は妻に別れて足をはこぶが、その里も「曲り角ごとに振り返っても」見えなくなると、もう身も世もない思いで山にむかって「靡けこの山」と絶叫したのである。人麿の妻恋いの情が「靡けこの山」に凝結したのである。

この作品で、人麿は、人情の機微を風土で裏打ちし、風土はさらに人情の機微をさそい出していく境地をうたいあげたということができよう。

○…

ある年の夏、私は山陰線都野津駅に下車して都野海岸へ遊んだことがある。砂防林を横切るとすぐに浜で、十分とはかからなかった。

砂浜が広々と続いている。青く重い海が水平線をくっきりと見せて果てしなくひろがっている。高いうねり波が五、六段の幅になってダダッと音をたてて渚をはい上ってくる。一瞬に白布を敷きひろげていくような壮観である。そしてその布が長く長く続く。その繰り返しを見ていると、気が遠くなるように悠久で寂しい。人影はほとんど見かけない。浜はみずから憂愁に沈みこんでいるようである。

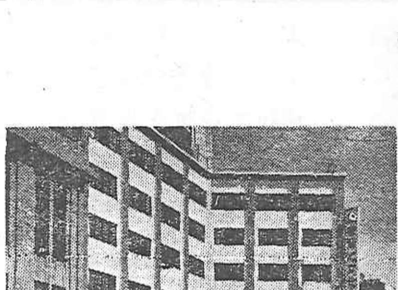
都野の浜は、人麿の言葉そのままに浦もなく潟もない茫々たる砂浜である。ここには、万葉時代の風情がそのままそっくり伝えられているようである

○…

陸の方を振り返ると島星山（高角山）の細長い稜線がくっきりと砂防林の上に見える。

都野の町はずれには、柿本人麿神社もあり、その境内には人麿筆掛松という巨松が枝を張って見事である。（随筆家、写真も。写真は 都野の浦）

修学旅行は
日本の歴史を眼で見る
奈良
奈良にお越しの節は是非下記の各店にお気軽にお立寄り下さいませ。
近畿日本ツーリスト指定店
奈良春日若草山地区休憩店
丸十物産／山都屋／三条小鍛治／
菊一文字／杉本物産／三笠物産／
大和物産／神仙境／日日軒



修学旅行のご宿泊に……
■東京随一の環境・素晴しい展望
■交通至便・羽田から25分
■玄関前にバス15台の駐車場
■安全第一の諸設備完備
■清潔な調理場と快適な大食堂
■浄化装置の大小浴場
財団法人　修養団経営
東京青年文化会館
東京都渋谷区千駄谷4―25
電話（403）5111（代表）